

第6期 麻生区区民会議 第4回全体会議

- 1 開催日時 平成29年7月18日(火) 午後3時～午後4時20分
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]
安藤委員、石井委員、植木委員、緒方委員、海崎委員、佐藤委員、
佐野委員、菅野委員、鈴木(昭)委員、鈴木(隆)委員、関根委員、
高倉委員、高橋委員、橋本委員、林委員、松田(基)委員、
松田(通)委員、吉垣委員
(欠席) 長岡委員
[参与]
月本参与、石川参与
(欠席) 雨笠参与、老沼参与、勝又参与、木庭参与、花輪参与、山崎参与、
相原参与
[事務局]
安藤課長、福島担当係長、鈴木担当係長、西倉、榎本
[関係者]
北沢区長、山口副区長、長谷川区民サービス部長、
若尾保健福祉センター所長、猪又保健福祉センター副所長、
佐藤保健福祉センター担当部長、太田道路公園センター所長、
吉澤危機管理担当課長、井上総務課長、中村地域振興課長、
三枝生涯学習支援課長
- 4 傍聴者 3人

第4回麻生区区民会議

日 時 平成29年7月18日(火)

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時開会

1 開 会

植木委員長 皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、第4回麻生区区民会議を開催いたします。

本日、朝方は暑かったのですが、突如の雷雨ということで、びしょ濡れになりながら、この会場にたどり着いた委員の皆様もいらっしやいまして、大変ご苦労さまでございました。

この区民会議もやっと中間ということでございますので、これから最後の提案に向けて、皆さん頑張って議論を進めていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

2 議 事

植木委員長 それでは、本日の議事並びに次第につきまして、事務局より確認をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

事務局 企画課長の安藤でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、配付資料の確認をさせていただきます。

一番上に本日の会議の次第がございます。次から順に、資料1として、席次表、資料2として、第6期麻生区区民会議委員・参与名簿、資料3として、麻生区の魅力発掘・発信検討部会の調査審議状況、資料4として、市民活動・絆づくり部会の調査審議状況、資料5として、緑色の区民会議ニュースVol. 2、資料6として、第6期全体テーマについて、資料7として、冊子の麻生市民交流館やまゆり10周年記念誌「やまゆり」10年のあゆみがございます。また、参考資料1といたしまして、第6期区民会議スケジュール、参考資料2といたしまして、川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会報告書を踏まえた今後の検討についてというA3の資料、最後に、参考資料3で、第3回麻生区区民会議議事録、以上となっております。また、大変申し訳ありませんが、資料7の冊子につきましては、もし今までにお手元に既にご入手済みの方がいましたら、製作冊数に限りがございますので、今回の冊子については後ほどお返しいただければと思っております。

資料に不足等がございましたら、事務局までお申し出いただけますでしょうか。

次に、本日の議事について確認をさせていただきます。次第をご覧ください。2の議事といたしまして、次の点のご審議をお願いいたします。第6期麻生区区民会議調

査・審議課題等についてになります。どうぞよろしくお願ひいたします。

(1) 第6期麻生区区民会議調査・審議課題等について

ア 麻生区の魅力発掘・発信検討部会の検討経過及び意見交換について

植木委員長 それでは、早速議事の1の第6期麻生区区民会議調査・審議課題等について
に入りたいと思います。

まず始めに、ア、麻生区の魅力発掘・発信検討部会の検討経過及び意見交換を行いま
す。

それでは、麻生区の魅力発掘・発信検討部会の林部会長から検討経過の報告をお願
ひ申し上げます。

林副委員長 それでは、林から、麻生区の魅力発掘・発信検討部会のご報告をしたいと思
います。メンバーの皆さんも後から追加、補足など、どうぞよろしくお願ひいたしま
す。

これまでの審議内容のところですが、前回の全体会でもご報告した内容も含
まれておりますが、少し振り返りも含めましてお話しさせていただきたいと思いま
す。私どもの検討部会では、5期の区民会議、若い世代が住みやすいまちづくり部会
の検討内容をさらに深めるという方向性を持ちまして、魅力PR委員会の具現化に向
けて審議を進めております。

まず、若い世代が住みやすいまちづくりをなぜ目指すのかといいますと、そもそも
はその根底には、これからの将来の日本の人口構成を考えましたときに、麻生区のま
ちづくり、若い世代が住み暮らす活気のあるまちに将来もなってもらいたいというところ
があります。ということで、1番に書いてあります、「魅力発信の目的・対象」のどこ
ろは、これからも麻生区に住み続けてほしいという願ひを込めまして、子どもを含め
た若い世代に向けてを対象とするというふうに決めております。そして、区の魅力を
伝えるという方向性を検討しております。下に書いてありますように、子ども、若い
世代に伝われば、その親の世代にも伝わるだろうということで、若い世代をターゲッ
トにすれば、区民全体に広がるということが期待できるというふうを考えております。

そして、若い世代が住み続けようと思うようになるには、まず、麻生区に魅力を感じ、
離れがたいというような、愛着を持って、好きになってもらうことが大事だとい
うことで、審議テーマは、「ふるさと麻生づくり～愛着と誇りの醸成～」というふう
に決定しております。そして、子どもを含めた若い世代というふうに対象を絞ってまい
りましたけれども、特に新しく住み始めた方々、そして、その方々が特に子育て世代
ということであれば、ぜひとも麻生区をふるさととしての捉え方をさせていただきたい
ということで、そのようなテーマにしております。

そして、麻生区の魅力についても、ワークショップ等を行いまして絞ってまいりま

して、前回もご報告さしあげましたけれども、「自然・農」、「芸術のまち」、「市民活動が盛ん」ということを多くの区民に知ってもらいたい魅力ということで、検討を進めております。

審議の方向性につきましては、平成26年度策定のシティプロモーション戦略プランのサイクルの考え方を参照いたしまして、まず、好きになってもらう、そのことが区民がまちづくりに参加するきっかけになるだろう、そして、ますます麻生区の魅力が向上し、区外、区に住んでいる方以外の方に、麻生区ってこんなに素敵なまちなんだよというふうに発信する、そういう主体になっていく、そして、外から見た麻生区の認知度やイメージも上がっていく、そういうサイクルになることを検討していこうということになっております。

そして、麻生区に住んでいてよかった、これからも住み続けたい、そういうふうに、これから成長していく子どもたちも、将来、麻生区に住むっていいよねと思えるようなつながりをつくっていききたいというふうに考えて審議を進めております。

実際にどのような審議を進めているかというところ、右のページになります。「具体的な審議内容について」です。先ほど申し上げました審議すべき麻生区の魅力については3点挙げておりますけれども、「自然・農」、「芸術のまち」に関しましても、3番目に書いてあります「市民活動が盛ん」と切っても切り離せない関係にあります。「自然・農」に関しましても、やはり「市民活動が盛ん」を大事にしようというふうな団体がたくさんありますし、「芸術のまち」としての麻生区を広げようと思っているのも、やはり市民活動が支えている部分が大きくあります。ですので、この3点ということで、その中から特に麻生区だからというような付加価値、他の区にない魅力というところをぜひ発信していきたいと考えて検討している途中です。

そして、発信の仕方なのですが、先ほどから申しているように、子育て世代が対象なのですが、まず、市民活動とか、麻生区の魅力を発信しようという活動が盛んなので、広く浅く知ってもらうことで、自分が知りたい、こんなことがあるんだという入り口までたどり着く、その先はそれぞれの団体の方々が、ウエルカムで、私たちの活動、こうしているので、一緒にやりましょうというお誘いがあるだろうということで、麻生区の魅力を広く浅くでいいので、何しろ知ってもらう、きっかけづくりを目標にしましょうということにしております。

まずは、広く知る、関心を持つ、そこまでいくと、そうすると、今度は自分で調べてでも行くだろうというふうな考え方をしております。広く浅く、私たち麻生区の魅力を知ってもらうにはどうしたらいいだろうというところで、入り口までのご案内役というPR委員会のあり方を考えていきたいと思っております。その先は、さまざまな市民活動が盛んだということで、生きがいを見つけられるまちとしての麻生区が、もっともっと区民の皆さんにとって魅力あるものになればいいなというふうに考えて

おります。

最終的には、そのシティプロモーションのガイドラインの抜粋がありますがけれども、一番右側の「共有する」というところから、価値観を共有するような仲間ができて、やっぱり麻生区に住んでよかったというような、住み続ける動機までにたどり着けるようになっていければいいなというふうに考えて進めております。

発信する対象は子育て世代というふうにしましたけれども、子育てといいますが、赤ちゃんから高校生まで、子育て世代であるというくくりなのですけれども、その中でも特に小学生を持つ子育て世代を中心にしましょうというふうに考えております。そのところを確認しております。

「今後の調査審議について」の方向性なのですけれども、小学生を持つ子育て世代を中心に、効果的に届く魅力の発信方法、まだ発信方法のところ具体的に余り検討できておりませんで、これから検討していきたいというふうに考えております。最終的には、第5期に検討されておりました魅力のPR委員会の具現化を目指しておりますので、その方向性を崩さずに討議を進めていきたいと考えております。

それから、発信する魅力の検討なのですけれども、もっと具体的な魅力のさまざまな事項を挙げていこうというふうになっておりまして、次回の部会の宿題が、体験型で麻生区の魅力を実施しているようなイベント、企画等があったら、ちょっと調べてきてみましょうということが宿題になっておりまして、委員がみずから地域の中のさまざまな魅力の体験型のものをまず探してくることを宿題にしております。今後、魅力については、もっともっと具体的に検討していく必要があると考えております。

9月16日にあります子育てフェスタは、子育て世代の方々が大変多く市民館、区役所周辺にお集まりになられます。そのときには、検討部会を挙げまして、対象世代である皆さんにさまざまなご意見を伺いたいというふうに考えております。そこまで2回部会を開きますので、その中で何を聞いていくのか、的を絞って考えていきたいと考えております。

発信検討部会はそのような審議状況になっております。補足等ありましたらぜひお願いいたします。また、ご意見等いただければ、これからの参考にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

植木委員長 ありがとうございます。

それでは、今の説明につきまして、委員の皆様から何か補足、意見などありましたらお願いします。

関根委員 これからまだ具体的な内容ということがあるので、余り細かいことではないのですが、やはり我々がこの麻生区に来て、マンションを買おう、家を買おうと思ったときに、まず最初に、景観、美観ですよ。きれいなまち、整理されたまち、それともう1つ一番大事なことは、子育ての家庭において、子どもさんとか、若い女性と

か、そういう方の安全安心という部分も、そのまちを見るのには一番ポイントになってくるのではないかなど。特に子育て中の安心して地域で育てられる、それは大人が見て回るのではなくて、警察、消防、そういうようなものも含めて、このまちは犯罪の少ないまちだという感じを受けることが、そのまちを見るポイントの1つにもなるのではないかということで、一言だけですが、今後の検討の内容についていかがなものでしょうかというところです。

林副委員長 ご意見、ありがとうございます。実際に第5期のときに子育てフェスタでアンケートをとりましたときには、子育て世代の皆さん、麻生区は本当に安心安全なまちだというご意見が大変多く聞かれたようです。そういったことも踏まえまして、今後、そういった発信も内容に加えていくように検討部会のほうで議題に出していきたいと思います。どうもありがとうございます。

植木委員長 ありがとうございます。それ以外にご意見なりご質問なり、ございますでしょうか。

それでは、ございませんようですから、ただいまの報告と意見を踏まえまして、麻生区の魅力発掘・発信検討部会について、この方向性で審議を進めていくということでよいでしょうか。承認をいただきたいのですが、拍手でお願いいたします。

[拍手]

植木委員長 ありがとうございます。それでは、この部会につきましては、こちらの方向でこれからの検討を進めていただきたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

イ 市民活動・絆づくり部会の検討経過及び意見交換について

植木委員長 それでは、引き続きまして、次の議事でございます、市民活動・絆づくり部会の検討経過及び意見交換についてに入りたいと思います。市民活動・絆づくり部会の鈴木部会長から、検討の経過報告をお願いいたします。

鈴木（隆）委員 市民活動・絆づくり部会、部会長の鈴木でございます。本部会から報告をいたします。

本部会では、前回お示ししたとおり、「活動参加による仲間づくり・絆づくり・地域づくり」をテーマにして、前回の全体会から3回の会議を実施してまいりました。なお、この会は、以前までは（仮称）市民活動・絆づくり検討部会でしたが、市民活動・絆づくり部会とさせていただきます。

まず、1の「市民活動・絆づくり部会の審議テーマについて」、(1)をごらんください。本部会の議論のポイントは、「担い手づくりのサイクルのイメージ」をご覧いただければと思いますが、担い手づくりのサイクルをどのように具現化するかということがポイントでございます。「担い手づくりのサイクルのイメージ」のサイクルに乗って

いただくために、まずは麻生区民と地域活動をつなげる方法、また、担い手の意識を芽生えていただけるような方法を検討してまいりました。そして、これが「担い手づくりのサイクルのイメージ」の、前までなかったのですけれども、参加活動に伸びる矢印がございまして、「きっかけとなる機会」に当たります。担い手の意識を芽生えるとか、麻生区民と地域活動をつなげるとかというのがきっかけとなる機会というふうにつながってまいります。そして、このサイクルに乗っていただくためには、地域活動へ参加するためのきっかけづくりが必要であり、この議論に絞りまして、話をしてまいりました。

続いて、(2)「地域活動の担い手と対象」をご覧ください。こちら、「地域活動の担い手について」というところで、「多くの区民（世代に関係なく）が地域活動に参加するための方法を検討する」というのが、ここまでは同じなのですけれども、この後、前回の全体会議では、まずは、ふだんから地域にいるシニア層や子育てが一段落した女性を対象とするというふうな報告をさせていただいたのですが、前回の全体会議でいただいたご意見を踏まえまして、再検討した結果、対象については現時点では限定せず、今後、審議をしていく中で具体的に決めていくということで、今進めております。

「対象（貢献する相手）について」は、特にこの内容から変更はございません。このとおりでございます。

続きまして、2の「具体的な審議内容について」、(1)をご覧ください。以上のさまざまな議論を踏まえまして、動機づくりやきっかけづくりを絞り、議論しまして、きっかけづくり、動機づくりとなる何らかのイベントを継続実施することが提言であるということで、本部会では確認されました。任期中に普段活動に参加しない人に参加してもらうことを目的に、きっかけづくりのためのキックオフイベントを開催することを検討することになりました。

このキックオフイベントのイメージとしましては、委員から意見が出まして、平成14年から平成20年までに、川崎市の各区持ち回りで開催していた市民自治創造・かわさきフォーラムというのがありまして、これがきっかけづくりや動機づくりの非常によい機会になるというご意見が出されまして、そのきっかけで市民自治創造・かわさきフォーラムから派生してできた他区の事例とか、他地域の事例などをもとにイメージを委員で共有させていただいて、今、議論を進めてきております。このフォーラムというのは、簡単に言いますと、市民団体がPRをしたり、地域住民にこの活動について知ってもらうようなことを大きな目的としているイベントで、市民館という場所で複数の市民活動団体がブースを出して、さまざまな体験ができたり、活動報告を掲示することを想定しているようなイベントですが、そのようなイベントを継続的に実施されるように、具体的なイベントのマニュアルを作成して、本部会でキックオフイ

イベントを企画、開催、検証し、提言に反映していきたいと考えています。

しかし、イベントを開催するに当たり、きっかけづくりとしての有用性、例えば参加した区民にとっての効果的な規模、頻度、内容を検討していかなければならないので、今後、その議論を深め、参加団体が楽しむだけのイベントではなくて、ちゃんと効果的なイベントにしなければいけない、また、他のイベントで同じような、似たようなイベントがあると思うのですが、差別化を図っていかなければいけないということを確認されています。

続きまして、右のページの(2)「キックオフイベントについて」をご覧ください。今お話ししたのと繰り返しになる部分もございますが、現在までの議論の幾つかの点が部会のほうで確認されております。

まず、普段活動に参加しない方を対象に市民活動に参加するためのきっかけづくりとしてのキックオフイベントを開催したいということが確認されています。また、市民活動へ参加するための次のステップとなるメニュー、例えばそちらのキックオフイベントの中で、ただ参加してもらって、体験するだけでなく、今後どういうふうにしたらその団体に参加できるのかというようなステップのメニューなどを作成して配付するなどしたいという意見が出ております。普段活動に参加しない人が参加できるようなきっかけとなるような、そういうのを意識しながら、イベントの内容を検討していくというふうに考えております。

また、平成30年2月頃にキックオフイベントを開催したいと考えております。キックオフイベントは、最終的には提言に反映させていくということで、部会としての検証というような意味合いがありまして、委員から、開催した結果、どういうふうな提言にしていくかというのをまとめさせていただくということになります。

また、開催方法については、区民会議フォーラムを活用して開催したらどうか、場所については区役所の会議室で実施するのはどうかというようなご意見も出されております。

あと、先ほどお話ししましたけれども、さまざまな地域、他の区で実施されているものなどを共有させていただいて、このイベントのイメージを共有しているというお話をさせていただきましたが、委員の中でも有志で視察をしてくださった方がおりまして、高津区にある、どんなもんじゃ祭りというのがありまして、市民活動フォーラムのような形の内容ですけれども、こちらもご覧いただきまして、記載のとおりでございますので、後ほどお読みいただければと思います。

続きまして、3の「今後の調査審議内容」をご覧ください。今後は、キックオフイベント、具体的な内容や進め方について検討していくことになります。先ほどお話ししましたとおり、今後、活動につなげていただくための具体的なメニューづくりや、このイベントを周知するためのPR方法などを検討しなければならないということに

なります。小学校とか、こども文化センターに広報してみてもという意見もありました。また、開催時期、2月というふうにしていますけれども、会場、参加団体などもいろいろ検討していく必要性がありまして、第5期の提言により作成された、麻生区の市民活動団体検索サイトというのがあります、こちらに300団体ほど登録されているということなのですが、どういう形で、どういう基準で、このイベントにお声かけをしていくのかというところが課題でもあります。イベントに向けて具体的内容について、以上のことをキックオフイベントをやるということで、提言につなげるためにも、どのような内容で効果的に実施していくかということ、今後具体的に7月以降から検討していくこととなります。

以上、市民活動・絆づくり部会の報告でございます。ありがとうございました。

植木委員長 ありがとうございます。

それでは、今説明をいただきましたけれども、委員の皆様から何か補足する内容、もしくはご意見などございましたら頂戴したいと思います。

高倉委員 今の説明にありました、私もそう思うのですけれども、きっかけとなる機会づくりがやっぱりポイントかなというふうに思うのですね。ですから、評論家みたいなことを言って申し訳ないのだけれども、キックオフイベント、非常に期待しているのですが、ただ1つ考えないといけないのは、確かにキックオフイベントも1つの機会ではあるけれども、ここに左側の上のほうにイメージ図がありますが、そのサイクルに乗るのは、あくまでもきっかけづくりの1つがキックオフイベントであるにすぎないと思うのですね。というのは、このパターンに乗っているモデルというのは既に麻生区内ではあると思うのです。今日、お手元に資料で麻生市民交流館やまゆりの10年の記念誌が出ていますけれども、この中にもありますが、あそこでは違ったパターンのきっかけづくりでこのサイクル、ばっちりハマっているのが既に既成事実としてあるわけですね。具体的に申し上げますと、例えばきっかけづくりとなる機会というのが、アクティブシニアセミナー、これに一般の人たちが入ってきて、そこで仲間を作って、地域活動に入っていきみたいなパターンがありますので、そういった意味では、きっかけづくりというのは、今申し上げたアクティブシニアセミナーみたいなものがあるのでしょうかし、キックオフイベントもあるのでしょうかし、もっと考えれば他にもあるのかなということも少し目を置きながら。ただ、この区民会議では期間が限られていますから、キックオフイベントをいかに充実させるかみたいになるのでしょうかけれども、その辺のところを頭の隅に置いておかれたほうがいいかなというのを1つ思いました。これは意見でございます。

それから、先ほど説明があったかどうかわかりませんが、キックオフイベントに期待しているのですが、その開催時期、年を明けてからになるみたいな感じなのです。最終的に提言まで持っていくときに余裕があったほうがいいのではないかと思います。

うので、もっと早くできないのかなというのが、前々から少し気になっているのですが、その点についてお答えいただければと思います。

鈴木（隆）委員 ありがとうございます。まず、最初のことなのですけれども、さまざまなイベント、さまざまな入り口が区の中に存在しているということはお意見が出ておりました、そういう情報を収集して、イベントの差別化を図っていく、場合によっては共同していくということも必要なのではないかと思いますので、今後、具体的なイベントを実施するに当たりまして、そういう情報収集なども欠かさずに行って、また別のチャンネルとして、このキックオフイベントが存在できるように価値を高めたいと思っております。まだ具体的な内容が決まっていないので、ここまでとさせていただきます。

あと、開催時期につきましては、10月とか11月が、いろいろなイベント等が重なっております、福祉まつりや区民まつり、あとは、これは事務局の関係かもしれないですが、市長選挙などもございまして、かなり立て込んでいるということがございまして、いろいろなイベントを考えると、どうしても2月にせざるを得ないかなというのが1点と、あともう1つ、早くやりたいというのはやまやまなのですが、さまざまな準備が必要になってきまして、先ほどお話ししましたとおりに、開催場所、内容においても、かなり議論が必要になってまいりまして、そして、その後、それが決まりましたら、依頼などをしたりとか、会場についてのもっと具体的な議論が進んでまいりますので、どうしても行程を考えますと、2月になってしまうのかなというのがもう1点かというふうに思っております。

関根委員 高倉委員の言われたこと、ごもっともなので、私もこのことは同感なんです。他の市、他の区を見ていると、麻生区はこの分野についても、まちづくりについても、非常に進んでいる部分があるのですよ。これは実際にそういうところを見てみるとわからない。ただ、人口形態とか、新しくできたまちとか、古くからあるまち、多少の差はあるのです。だから、高倉委員が言ったように、正直言って、そういうような部門をまとめると、我々が今検討しているところができ上がるような気がするのですね。うちのほうとしては、もう5期、我々は6期ですね、常に検討、検討、検討で来ているようなのですね。実施とか実行というのがあまり見られないので、何も大きく手を広げるのではなくて、少なくともいいから、何か実効性のあることを1つ残していきたいという気持ちもあるわけです。この細部については、先程うちの部会長が言われたように、これからの検討事項になります。果たしてどこまでかということになるのですが、一応我々の立場としては、検証ぐらいまで持っていきたいという気持ちで、今、うちの部会長の報告ですが、ここまで来た段階ですので、今後、また皆さんのお力、お知恵を拝借するようになるかもしれませんが、まずは我々でもう少し練る時間、検討する時間をいただきたいと思っております。

以上です。

植木委員長 関根委員、ありがとうございました。

それでは、石井委員。

石井委員 具体的なことを一步進めたいというお気持ち、非常に大切なことだと思いますが、この10年前の市民自治創造・かわさきフォーラムということ、川崎市全体の市民自治創造・かわさきフォーラムから、各区、地域ごとにやってみましょうねということで、麻生区開催のときに、一応副実行委員長を務めました石井でございますので、準備に大変時間がかかりますので、もし1月にせよ、2月にせよ、開催するのであれば、かなり実行委員会とか何かが必要でしょうし、初めからそんなふうにあらゆる分野の市民活動団体を網羅してということを考えなくても、とりあえず一步踏み出してみるということはいいかなと思います、麻生区での市民自治創造・かわさきフォーラムを開いたときの報告書とか何かは残っていませんか。あるかとも思いますので。

植木委員長 その資料は既に行政のほうからいただいて、それをベースに検討を部会でしております。

石井委員 だから、全市から各区レベルの地域づくり、まちづくりに関して、一步を踏み出したときには、会場も市民館を全館押さえるぐらいの大規模のものでございましたし、ホールも押さえておりましたけれども、今、ホールは工事中か何かで使えなくなってしまうし、だから、その辺も踏まえながら、どうぞご検討を賜りまして、市民活動フォーラムとか何かの、小杉ではなくて、麻生区で開くというのをぜひ期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

海崎委員 絆部会の海崎です。今、高倉委員がおっしゃったように、簡単に言えば、このサイクルはやまゆりがやっていることなのです。アクティブシニアもあるし、区民講師を公募したり、ボランティアを公募したり、これ、やっているわけですよ。このイメージは合うんですね。ただ、部会で話したことは、あそこは場所が小さいと、また大きな場所をつくるかという問題と、他でやろうじゃないかということと、やっぱりきっかけ。例えばやまゆりのきっかけの部門を発表したっていいわけですよ。一番してはいけないことは、活動団体、川崎のネットでもいいけど、選んで、その活動発表会だけでは全くだめだと私は思います。活動団体が楽しむのは、やまゆりでもよくやりますけれども、それはほとんど意味がない。いかに一般、活動していない人を引き込むかということなので、その辺を踏まえて制度設計を我々部会でやろうと思えますけれども、そこが一番ポイントなので、活動団体を集めてお祭りをやっても、意味ないですね。それはやめたい。いかに一般区民を巻き込むか。アクティブシニアで言えば、そこで募集を開始したっていいわけですよ。ちょっと時期的には合わないけどね。そういうことで、いかにきっかけをつくるキックオフのフォーラムにするかとい

うことが一番大事なかなと思っています。

佐野委員 市民活動・絆づくり部会、佐野でございます。部会長のおっしゃったように、ちょっとフォローさせていただきますと、キックオフイベント、フォーラム等、区民まつり、福祉まつり、あと、やまゆりでも活動団体の紹介とか、市民館の活動まつり等ありますから、それぞれ、今まで既存にあるものとは違う差別化を図っていくというのが、まず私たちのスタートです。同じものをやっても意味がない。同じような人たちが集まるだけだから、そうではなくて。あともう1つ念頭に入っているのは、今まで地域につながっていない人たちをどのようにつなげていくか、そのきっかけになる、それがベースとして、目的として、やりましょうということですので、どういう形になるか具現化するのは、これから先検討していきましょうということになっております。

それと、先ほど高倉委員からもおっしゃっていただいたように、継続等ということに関しても大変必要なことでもありますので、来た方々が、もし新しく、初めて参加する方が来てくださって、その方が次に行くステップに進めるようなメニューを責任を持って、この部会、そこまでを提供しなくてはいけないということは、私たち、部会のほうでも検討しています。ですから、キックオフイベントを開催することは大切ですが、その先のメニューを検討していくことのほうがもっと大切だということは検討しております。

この図の中で「きっかけとなる機会」というのが新しくぼんと入ってきたというのを、今、この図を拝見しまして、私のイメージの中では、大縄跳びか何か、皆さんで大きくしているところに、1人1人、初めて新しい人が入ってくる、また新しい人が入ってくる、その新しく入るときの、そーれっと背中を押すような、そんなきっかけになるような感じ。ですから、高倉委員がおっしゃったように、既存の輪というのは既に存在すると思うのですね。そこに入るきっかけとなる循環に乗れるようなものになるところを何か提供していければ、そうすると、みんな一緒に地域の中で、地域でつながる、社会でつながることは本当に大切なことだし、自分の人生にとっても、生活していく意味でもとても大切なことなんだよ、いいことなんだよということを、やっぱり皆さんに知っていただきたい、そんな思いで企画できたらなということを思っております。

植木委員長 佐野委員、的確なフォロー、ありがとうございました。

石井さん、手を挙げていたけど。

石井委員 いい言い方ですね。

植木委員長 石井さんはいいということなので。

石井委員 やっぱりやまゆりの活動は非常に結構なものなのですが、何でもそうだけど、ひとりよがりにならないように、できるだけいろいろな目を配りながら頑張っ

ていただければと思います。

植木委員長 ありがとうございます。鈴木委員、まだ若いので、メンバーの方はこれだけいろいろな意見を出していただいて、フォローしている、すばらしい姿だなというふうに思いますので、若手を代表して彼は頑張っているのです、ぜひ皆さんでフォローしていただければと思います。よろしくお願いします。

意見も大分活発に出していただいたようでございますので、それでは、今の報告と意見を踏まえまして、市民活動・絆づくり部会について、この方向で審議を進めていくということでご承認をいただきたいのですが、拍手でお願いいたします。

[拍手]

植木委員長 ありがとうございます。それでは、この方向で、鈴木さん、頑張ってください。

ウ 企画部会の検討経過報告及び意見交換について

植木委員長 それでは、次の議事でございます、企画部会の検討経過報告及び意見交換についてに入りたいと思います。

企画部会の高倉部会長から、検討報告をお願いいたします。

高倉委員 私からは、レジュメにあります企画部会の検討経過報告及び意見交換と申しますより、特段、取り上げてご報告することはございませんので、皆様方のお手元の資料5の麻生区民会議ニュース第6期の第2号の発行についてお話をさせていただきたいと思います。

区民会議ニュースにつきましては皆様方ご存じのとおり、区民会議の認知度を向上させるということも含めまして、区民会議の広報広聴活動の一環として、第6期も任期中6回ほど区民会議ニュースを出そうという予定で進めているということでございます。前回、ことしの3月15日付で第1号を出しましたし、今回、6月16日付でお手元の資料のとおり、第2号を発行いたしました。今回の内容につきましては、2つの専門部会、魅力発掘・発信検討部会と市民活動・絆づくり部会の審議の進捗状況を報告することをメインといたしました。内容につきましては、先ほど両部会から報告がありまして審議されたとおりでございますので、説明は省略させていただきたいと思っております。ただ、紙面づくり上、両部会とも限られたスペース内に最大限の内容を見やすく入れていきたいということで苦心しておりましたし、そこはちょっと何とかしようということで、イメージ図を取り入れてみました。あと、両部会長の顔写真も入れてみました。

それから、裏面の中段、真ん中よりちょっと下のほうに、「区民会議に寄せられたご意見について」ということで、これにつきましては、前回の全体会議を傍聴された方からご意見をいただきましたので、これの回答も軽くといえますか、余り深入りして

おりませんけれども、掲載させていただいております。

第6期の区民会議ニュースは、できる限り多くの区民の皆さんに読んでいただいて、会議自体の傍聴にもおいでいただくことができるような紙面づくりを目指しておりますので、各委員の皆様方におかれましても、何かいいアイデアがございましたら、企画部会のほうにご意見をお寄せいただきたいと思いますと思っております。

私からは以上でございます。

植木委員長 ありがとうございます。

それでは、今の説明につきまして、企画部会の委員の皆様から何か補足など、それ以外の委員の方からは意見などございましたら、頂戴したいのですが。

橋本さん、何か意見あるの。いいですか。

橋本委員 言いにくい意見だから、言いません。

植木委員長 言いにくい意見だそうですので、後ほど別の機会にお聞かせ願えればと思います。

それでは、企画部会につきましては、今後も区民会議ニュース、それから、区民会議の広報など、企画部会のほうで頑張っていたきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(2) 第6期全体テーマについて

植木委員長 それでは、第6期全体テーマについて、高倉部会長のほうから引き続き報告をお願いいたします。

高倉委員 それでは、私のほうから、第6期全体テーマについてということで、お手元の資料6でございます。これについてご説明させていただきたいと思っております。

これまでの第1期から第5期につきましても、第5期の区民会議もそうでございますけれども、各部会の審議テーマは当然決まっておりますが、区民会議全体として何か1つのテーマを決めようということで、ずっとやってきております。先々それがどうなるのかという話でございますけれども、これは最後の提言、区民会議報告書のサブタイトルになるというふうにお考えいただいて結構だと思っております。

お手元の資料に沿って説明させていただきますけれども、「参考：第1～5期の全体テーマ」について先にお話しさせていただきますと、第1期につきましては、各部会の審議テーマが「地域のつながり「あいさつ」がはじまり」から始まりまして、3つほど書いてあります。そのときに決めたテーマが「心響きあう地域づくり」ということございまして、第2期も同じように、各部会のテーマ、右側に書いてございますけれども、「市民活動推進」に始まりまして、「環境教育」まで、これを通したときに、たまたま同じくくりができるのではないかとということで、第1期、2期全体テーマが、「心響きあう地域づくり」になったという経緯がございます。それから同じよう

に、第3期につきましても審議テーマを考えて、「人と人と心をつなぐ地域づくり」ということでやっておりまして、第4期のテーマにつきまして、右側にあります「安全・安心のまちづくり」、「若者が住みたくなる魅力あるまちづくり」につきまして、共通のテーマとして何がふさわしいかと考えたら、たまたま3期のテーマをそのまま引き継いでいけるねという話になっているということでございます。

裏側になりますけれども、第5期のテーマが「心がかよう魅力あるまち あさお」ということで、部会としましては、「若い世代が住みやすいまちづくり」、「市民活動・地域活動の活性化」という、この2つの部会がございましたけれども、共通のテーマとして「心がかよう魅力あるまち あさお」を挙げておりました。という下地がございまして、今回、第6期のテーマをどうしようかということ考えておりました。

一番最初が一番頭になりますけれども、第6期審議テーマは、1つは「活動参加による仲間づくり・絆づくり・地域づくり」でございますし、もう1つのほうは、「ふるさと麻生づくり～愛着と誇りの醸成～」でございます。これにつきまして、どちらの審議テーマにも共通したテーマを企画部会のほうで考えさせていただきまして、「心がかよう魅力あるまち あさお」でいかがでしょうかということになりました。これにつきましては、企画部会で仮の案を出させていただいて、両部会に投げかけましたところ、両部会とも了承いただいたということでございますので、改めて企画部会のほうで第6期の全体テーマを「心がかよう魅力あるまち あさお」にさせていただきますということでご報告申し上げます。

以上です。

植木委員長 ありがとうございます。今まで1期、2期で一緒、3期、4期で一緒、今回、5期、6期で一緒ということでございますけれども、これは偶然の結果でございます、それぞれの部会で一生懸命検討していただいた内容がこれになったということでございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

委員の皆様から何か補足などございましたらお聞きしたいのですが。

関根委員 6期の全体テーマ、大いに結構だと思います。どのテーマを見ても、人とまちが入っています。環境が入っています。人と環境というのは、どのテーマにも入っていますね。こういう部分では大変結構なことだと思っております。

植木委員長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。

それでは、今の報告を踏まえまして、第6期全体テーマは、「心がかよう魅力あるまち あさお」に今回決定させていただきたいと思ひますが、いかがでございましょうか。

〔拍手〕

植木委員長 ありがとうございます。皆様からご同意を得たということで、これで進めさせていただきますと思ひます。

(3) その他

植木委員長 それでは、引き続きまして議事(3)その他に入りたいと思います。事務局から説明を、じっくりとお願いいたします。

事務局 では、事務局から、まず、参考資料1についてご説明させていただきます。

麻生区区民会議、大体ここで折り返しの1年間を過ぎたということで、企画部会のほうから、今後のスケジュールを参考に示してほしいというご要望がございまして、来年の6月までの定例の会議について日程を全て示させていただきました。実際の各部会の審議におきましては、臨時部会であったり、変更もあるかと思いますが、一応お示ししたものを定例として進めていただきたいという形で各部会のほうも先を見て進めていただきたいという形のお話でございましたので、皆様のご予定について確保していただければと思っております。

スケジュールについては以上でございます。

植木委員長 ありがとうございます。今、スケジュールにつきましてご説明がありましたけれども、何か特別にご意見がある方はお願いしたいと思います。

それでは、このスケジュールに従いまして、皆さん、大変多忙だと思いますけれども、スケジュールをとっていただきまして、区民会議を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

事務局 続きまして、参考資料2につきましてご説明させていただきます。

こちらにつきましては、ご報告になるのですが、先般、5月25日に市民文化局から市議会文教委員会へ報告がございまして、その際の資料になります。内容につきましては、皆様ご存じのとおり、去年1年間で、川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会で、今後の地域づくりについて検討が進んでいたところでございます。その報告書が今年3月に冊子として出まして、それを受けてでございました。

内容でございますが、第1章は検討委員会についての内容でございます。第2章は現状と課題という形でございますが、今までの区民会議、また、まちづくり組織等について改めて検討したところ、いろいろ課題も見えてきているというふうに話は出てきております。

まとめのところにつきましては、第3章を見ていただいたほうがよろしいと思うんですが、区民会議・まちづくり推進組織については、ずっと活動してきた中で、今現在の社会的な状況において、だんだん制度にずれが生じているのではないかと、また、区によっていろいろな違いが出てきているので、そういったところを整理する必要があるのではないかとということでございます。また、今は区にそれぞれ1つという形でやっているのですが、それをもうちょっと自分事になりやすい小さな単位で考えてみたほうがいいのかというご意見でございます。また、無作

為抽出という形で、潜在的に意見があるようなものも取り込む手段を考えたほうがいいのではないかとということでございます。また、中間支援機能として、区民がいろいろな活動を行う際に、資金面等、それぞれのサポートが必要であり、そういった中間支援機能の仕組みをもう1度きちんと考えたほうがよいのではないかとということでございました。

また、次に、第4章におきまして、検討の方向性の提言というものがございました。1については、「参加と協働による地域課題の解決の新たなしくみ」で、区民会議の目的である「参加と協働による地域の課題解決」について、今後、既存の区民会議の枠組みだけでなく、今までの活動や提言を踏まえて新たな仕組みを検討することも必要だということでございます。また、2番目として、「まちづくり推進組織と中間支援機能」につきましても、まちづくり推進組織の新たな仕組みを検討していく中で、区における検討とあわせて、そういったあり方についても検討を進めていく必要があると考えているということでございます。「その他関連する制度等との関係」ということで、市民自治のあり方全体としての視点を持ちながら、既存の市民活動支援施策やコミュニティ施策等との役割分担や連携のあり方の整理が不可欠と思われるというところでございました。

そして、最終の大きな2番で「検討委員会報告書を踏まえた今後の検討の方向性」が示されておりまして、3点ございますが、区における参加と協働による地域課題の解決の「新たなしくみ」を検討すること、2番目として、検討に際しては、市民自治のあり方全体としての視点を持ちながら、既存の市民活動支援施策やコミュニティ施策の検証を行い、これからの時代を見据えた新たなコミュニティ施策の再構築に向けたロードマップを作成すること、また、30年度以降の区民会議を休止することも視野に入れながら、この新たなコミュニティ施策のロードマップについての検討を進め、その後の「新たなしくみ」構築に向けては、徹底したプロセス重視と実験的参加手法の導入など、多様な市民参加の機会を活用しながら取組を推進という形で、検討の方向性が示されております。

今後、文教委員会におきましては、こういった形で検討を進めたいという報告がなされておりまして、ただいま市民文化局のほうで、こういった形でやっていくかということを検討していると伺っております。その形につきましても、随時方向性が出た段階で、各市民団体、区民会議ですとか、区役所のほうにも情報をいただくことになっておりまして、また、そういった中で皆様のご意見も伺いながら検討を進めていきたいというふうに伺っております。

事務局からは以上でございます。

植木委員長 ありがとうございます。かなり重たい話でございますので、委員の皆さんからはご質問なりご意見なり、こんなことはどうなの等々含めまして、何かございま

したらお願いしたいと思います。

突如のご説明なので、古くからいろいろ市民活動をされている方は、どういうぐあいに質問したらいいかわからない、私もそうでございますけれども、石井さん、いかがですか。

石井委員 突然これを見て。私は地域教育会議をやっておりましたので。地域教育会議というのは行政区の地域教育会議と各中学校区の地域教育会議があります。そこがうまくどのように機能しているかはここでは避けましても、その方向性と、例えば、より多くの当事者意識を持てるように身近で小さな単位での実施などということとか、あるいは包括支援センターシステムの地区割とかということは、要するに行政区というよりは、各中学校区ぐらいの単位で自治創造を少し考えていこうではないかという報告書でございますのでしょうか。川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会報告書というのは、いつごろ出たのでしょうか。

事務局 まず、こちらが検討の報告書なのですが、ことし3月に報告が出ております。小さな組織というのは、確かに今よりもという形ですが、まだ具体的にどの単位でのということは示されてはおりません。そういったことの単位も今後検討課題になるというお話と伺っております。

石井委員 小学校区でとか、あるいは中学校区でとか、各区自体も24万だとか30万近い人口を抱えたり、あるいは麻生区の場合、17万超えていますけれども、そういう人数が多ければ多いほど、自治づくり、あるいは地域づくりは難しくなるというのは実感しているところでございますので、それらを地域づくり、まちづくり、自治づくりを考えるに当たっては、小さなほうがお互い顔が見えますし、当事者意識が持てるので、大変結構なことだと思いますけれども、システムを変えるときに、システムを変えたことが市民社会に浸透していくのはとても難しく時間がかかるので、その辺のところにご配慮していただきながら、実は自分たちの暮らしと密接に結びついているんだよねというところまでどう落とし込んでいくかをご検討いただければありがたいなと思っています。

植木委員長 実はこれはとりあえずこういうような形で進んでいますよというようなご説明でございますので、これからいろいろな方がどういう形でこれを進めるかは、行政の方は考えていらっしゃると思いますけれども、そういった形の中でいろいろな皆さんの意見を反映しながら進めていくということによろしいのですよね。

事務局 そのように伺っております。

関根委員 一応この説明といっても、具体的にまだはっきりと理解しがたいところがあるのですが、麻生区とか、幸区とか、高津区といっても、あくまでも行政区は川崎市なのです。東京都の23区と違って、ともに行政を持っていない区なのです。川崎市。そうすると、こういうような長期、今ではなくて、先を見つめて、川崎市全体の

展望という形で進めていかれるから、今後、そういう中で、それぞれの区はどのような形に進んでいくかというのはまだ見えないようにも思えるんですね。やはりもともと言えば、川崎市のほうで全て予算も握っている自治体ですので、そういうようなところから出てくる話であれば、これに基づいてまたそれぞれの7区がどのような形で上から示されてくるか、課題をあてがわれるかというふうに、今後、20年、30年先のような行政改革みたいなのところもあるのではないかと理解させていただいたのですが。

石井委員 平成30年度以降というから、来年度以降に何かあるというふうに。だから、上からというのはわかるのですけれども、むしろ私たちがどういう地域を望んでいるのというのを下からボトムアップしていった、そういう検討委員会であってほしかったなと思いますけど、なかなかこれは私も、こういう検討委員会があるということがわからなかったのですが。

植木委員長 私もよくわからないけれども、そういった形で進んでいたものですよということを今日皆さんにご披露されたということで、これについて、ここで意見を言い合うのはこの場ではふさわしくないと思いますので、また別の機会を行政のほうでつくっていただけたらと思います。その中で、今、いろいろな前向きな意見が出ておりますので、それらを反映していただければいいのではないかと私は思います。そういった形で、ぜひ皆さんの意見が反映できるような、これは川崎市全部で右、左という話ではないと思うんですね。それぞれの区にはそれぞれの特徴があると思いますので、それぞれの区の特徴を生かしながら、ぜひ区民の方の意見が反映できるような、そんな形で進めていただきたいということをご要望申し上げまして、ただいまのご説明に対する私どもの考えという形でまとめさせていただきたいと思います。よろしいですか。

では、そういうことでひとつよろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の議事につきましては以上になりますが、事務局から何か連絡事項等ございますでしょうか。

事務局 次回の全体会議の日程についてご確認させていただきます。11月21日、火曜日の15時から開催させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

植木委員長 ありがとうございます。

それでは、本日はお足元のお悪い中ご出席いただきました参与の皆様より、区民会議へのご助言や本日の感想などをお願いしたいと思います。

それでは、月本参与からお願いします。

月本参与 皆さん、お疲れさまです。参与の月本です。遅参してしまいましたので、初めの麻生区の魅力発掘・発信検討部会のご説明については聞けなかったのですが、申し訳ございません。ただ、小学生を持つ子育て世代を中心に発信方法を検討するというこ

で、私はたまたま町会の中で1つの小学校区なのですけれども、別の学校に行っている子が多いような地域で、こども会と小学校の関係が一致しないようなところもあったりするので、小学生という世代がそういった意味でもちょっと特殊なところなので、こういった視点を入れていただけるというのは新しいところかなというふうに思いました。

あと、市民活動・絆づくり部会のほうでございますが、部会長さん、鈴木さん、お若い方で、私も白百合ライオンズクラブの会長に7月からなって、メンバーの中で一番若い会長をやらせていただいておりますので、先輩方からいろいろご指導いただきながら進めているのですが、今日、皆さんの活発な議論を聞きまして、先ほど事務局から説明のあった共に支え合う地域づくりの検討委員会の話で、最後、植木委員長が締められた言葉がまさにそうなのかなと思うのは、各区で区民会議、ニュアンスも違いますし、行動も違いますし、麻生区はアクティブな方が、やまゆりもあってということもあって、麻生区らしい特徴のあるものができてくるのかなということで、特に今回は若手の方が部会長として中心にやられて、そして、経験者の方との意見の融合というのはあると思いますので、経験者の方がわかる実務的なアドバイスをされたり、でも、新しいからこそ、発想として豊かであったりというところが、これから入り混じってきて、日程が限られた期間になってくると思うのですけれども、盛り上がってくる、我々、若い世代からすると、若い世代が参加して、メンバーになっているような実感のあるような議論でしたので、うれしく今日は拝見させていただきました。今後よろしく願います。ありがとうございました。

植木委員長 ありがとうございます。それでは、石川参与、お願いいたします。

石川参与 皆さん、こんにちは。神奈川県議会議員の石川裕憲でございます。今日は久しぶりに麻生区区民会議に参加として出席させていただきましたけれども、皆さん、非常に熱心にお話をしているというところで、まちを、そして、麻生区を愛しているんだなという思いを非常に感じた区民会議でありました。私も、以前からいらした方にはお話をさせてもらいましたけれども、麻生区に引っ越してきて十数年になりますけれども、それまでは違う地域から参りました。麻生区に住んで3回引っ越しをしています。麻生区内だけで。栗平からはるひ野、はるひ野みたいな。やっぱり麻生区に住んでみると、麻生区の良さというのが非常にわかるんですね。でも、十何年経ってしまうと、それが当たり前のような状況になってきてしまいますので、その辺を私も区民会議で改めて感じさせてもらっている次第であります。

私、県会議員ですので、同じ県内で、いろいろなところで名刺を配ると、まだ「あさおく」ではなくて「あそうく」と言われたり、麻生区ってどこだというふうに聞かれたりもします。そういう中で、新百合ヶ丘ですと言うと、ああ、新百合ヶ丘ねという話もあるわけで、新百合ヶ丘というところが代表的な地域でありますけれども、や

っぱり麻生区というところをもっとPRしていくべきではないかなと。里山もあります。そういうところもしっかりとこれから応援していきたいと思いますので、今後ともご指導をよろしくお願いします。ありがとうございました。

植木委員長 ありがとうございました。参与の皆様には、今後とも、この区民会議へのご助言をお願いしたいと思っております。

次に、本日の審議を踏まえまして、北沢区長よりご挨拶をお願いしたいと思います。

区長 本日は、お忙しい中ご出席を賜りましてありがとうございました。また、ちょうど皆様方がこちらに向かう時間帯が非常に雨の厳しい、きつい時間だったと思いますが、そんな中、大勢お集まりいただきまして、ありがとうございました。

早いもので、第6期の区民会議も半分まで来てしまいました。どちらの部会も具体的な審議内容に入っているということが本日報告をいただきましてわかりました。また、本日の全体会でもその審議されている部会、そして、全体の雰囲気よさがとてもよくわかりまして、大変にありがたいなと思います。石川参与のほうからもありましたように、皆様方、麻生区を愛していらっしゃる、それが大前提で、その上でいかにまちづくりをしていこうかというところの視点でいろいろなご審議、調査などをしていただいていることを重ねて感謝申し上げます。

そして、それぞれの部会ですけれども、麻生区の魅力発掘・発信検討部会、本当に麻生区はいろいろな魅力がございます。それをいかに発信していくことで、ずっと住み続けていたいまちにしていこうか、そういうことが大事ですし、今の若い世代の人、そして、子どもの世代までも巻き込んだ形で対象範囲を広げていただいているところが本当に素晴らしいなと思っております。非常に重要なことだと思っております。また、子育てフェスタなど、既にあるイベントなどを利用してヒアリングを行うということでございます。今後の議論の参考にしていただければと思います。

また、市民活動が盛んという魅力も取り上げていただいていることに、そのとおりだなというふうに思います。もう1つの部会とも関連がありますけれども、いかにいいものを地域の中に浸透させていくのか、そして、自分たちのものにしていくのかというのは、やはり市民活動だなというふうに思いますので、市民交流館やまゆりでの皆様方の活動もそうですし、そういった麻生区の魅力を若い方々にも十分に理解し、参加していただけたら本当にうれしいなと思えました。

そして、市民活動・絆づくり部会につきましても、先ほど佐野委員から大縄跳びをしている、そういう例えをしていただき、背中を押す、そういうきっかけですね。市民活動団体にかかわって活動していらっしゃる方がまゆりに登録されている団体でも670近いということで、ほかの区に比べると断トツで多いのですね。そういう活動をされている方々に仲間に入りたいということがございます。高齢化でも市

内でトップになりましたし、家の中に引きこもらずに外に出てきてもらいたい、そういうきっかけとしてのキックオフのイベントを私どもも期待しております。なかなか難しいことだとは思いますが、何かしらきっかけとなるようなヒントを区民の皆様方に与えていただければ、本当にうれしいなと思います。

そして、イベントを開催して、検証までの結果を提案にまとめていただけたというふうな方向もお聞きいたしました。大変に頼もしく思っておりますので、提案書を楽しみにしております。そして、今後とも建設的、活発に議論を進めていただければ幸いです。

そして、今後の地域づくりの検討委員会の報告書に伴った報告をさせていただきましたけれども、今後、市民の皆様方に案を提示しながらご意見をいただくとか、そういうプロセスをきちんと踏んでいくということでございますので、皆様方、認識が我々と同等かなというぐらいに、市でつくっていくけれども、それぞれの区の特徴を生かした形で進めていくんだよねというようなことになろうかなというふうに、私もぼんやりですが、思っております。そんな中で、麻生区はしっかりとした基盤があるかなというふうに思いますので、これまでのことを否定とか、そういうことは一切ないと思います。これまでの活動ですとか、母体を踏まえた上で、今後さらにどういう形で進めていくのがいいのかということをやっていこうと思っておりますので、その辺のご理解についてはよろしくお願いします。

それでは、本日は本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

植木委員長 大変温かいお言葉をいただきまして、力強く思っております。

3 閉 会

植木委員長 以上をもちまして、第4回全体会議を終了させていただきます。本日は皆様ご苦労さまでございました。

午後4時20分閉会